第 25 回歴史文化をめぐる地域連携協議会
地域博物館の未来―地域の記憶・記録を支える〈場〉を考える―

地域に所在する歴史系博物館や資料館は、地域に残された歴史資料を保存・調査し、その成果を展示公開する役割を担ってきました。また同時に、こうした役割を通じて地域住民と地域の歴史とを結びつけ、地域の歴史を未来に繋ぐ場としても重要な役割を果たしてきました。地域の歴史資料と、人々が織りなす関係性を「地域歴史遺産」と呼びならわすのであれば、地域博物館はまさに、地域歴史遺産の保全・活用を支える地域の重要な拠点と位置づけることができます。

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターでは、これまで兵庫県内の各自治体との連携事業において、地域の博物館や資料館と協働し、展示協力や共同調査に取り組んできました。そのなかで、各館の地域に根ざした活動を支援するとともに、様々な課題を共有してまいりました。

近年、地域社会や文化財行政を取り巻く環境が大きく変化するなかで、地域博物館に求められる役割は一層多様化しています。文化財の「活用」を重視する近年の行政動向を背景に、各地で文化財保存活用地域計画が策定され、観光振興や地域活性化への積極的な関与が求められるようになりました。加えて、利用者の関心や学びが多様化する現代において、地域の歴史遺産に対する人びとの興味を育んでいく活動も、ますます重要性を増しています。このように、地域博物館は、地域住民に向けた史資料の保存・調査・展示に限らない、多様な役割を求められるようになっています。

しかしその一方で、自治体の財政難や専門職員の不足により、博物館が本来担うべき保存・調査・展示といった基本業務を円滑に進めることが困難な状況も生じています。また、「家じまい」等に伴う地域資料の受入要望が増加しているにもかかわらず、収蔵能力の限界から受入を断念したり、ときには貴重な史資料を廃棄せざるを得ない事例も報告されています。さらに、人口減少や少子高齢化が進むなかで、地域の歴史を担う人材の減少が懸念されています。

こうした状況が続く中で、地域博物館が本来の役割を果たせなくなれば、地域歴史遺産の保全・活用にも関わる深刻な問題となります。今こそ地域博物館は、より多くの人を巻き込んだ、未来志向の活動を考えていく必要があります。そしてその実現のためには、地域博物館の学芸員だけでなく、館を取り巻く様々な人々が一丸となって、館の活動を支えていく体制の構築が不可欠です。

今回の協議会では、こうした問題意識を踏まえ、兵庫県内外の博物館・資料館における具体的な取り組みをご報告いただきます。そのうえで、未来に向けた地域博物館の可能性について、ご参加の皆さまとともに協議していきたいと考えています。

また、本協議会は単にテーマに即した議論を行うにとどまらず、各地からの参加者の皆様が交流を深める場となることも企図しております。活動の成果物や書籍などをお持ち寄りいただき、展示・交流の機会としてご活用いただければ幸いです。

開催概要

日時：2026 年 12 月 19 日（土）13:00～17:00

会場：神戸大学大学院人文学研究科 B 棟 331 教室

主催：神戸大学大学院人文学研究科、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

共催：兵庫県教育委員会、人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」神戸大学拠点

プログラム

13:00-13:05　事務連絡

13:05-13:10　開会挨拶　　玉岡雅之（神戸大学理事・副学長）

13:10-13:15　主催者挨拶　白鳥義彦（神戸大学大学院人文学研究科長）

13:15-13:20　問題提起　　井上舞（神戸大学大学院人文学研究科特命講師）

13:20-14:00　報告①　「岡山空襲展示室の取り組み
―収集資料・体験談の利活用と教育普及事業を中心に―」
木村崇史（岡山空襲展示室学芸員）

14:00-14:15　休憩

14:15-14:55　報告②　「瀬戸内ギャラリーの設置ととりくみ
－分館化・民俗単館化のなかで－」
田井静明（瀬戸内歴史民俗資料館専門職員）

14:55-15:35　報告③　「地方自治体の文化財部局による市立資料館の運営」
玉出隼人（丹波市教育委員会社会教育・文化財課学芸員）

15:35-16:00　休憩・交流会

16:00-16:55　総合討論

16:55-17:00　閉会挨拶　　古市晃（人文学研究科地域連携センター長）